

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01245

研究課題名（和文）環太平洋圏における核と原爆をめぐる想像力と植民地主義の研究

研究課題名（英文）Transpacific Nuclear Imagination and Colonialism

研究代表者

松永 京子（Matsunaga, Kyoko）

広島大学・人間社会科学研究科（文）・准教授

研究者番号：50612529

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、環太平洋圏の核・原爆をめぐる文学作品や文化的表象を対象とし、これらの言説や表象の相互的関わり合いやせめぎ合い、連携や差異のあり方を（ポスト）コロニアリズム的視座から多角的に解明することを試みた。具体的におこなったのは以下の3点である。（1）アメリカ、カナダ、オセアニア、東アジアにおける核・原爆の言説や表象を（脱）植民地主義との関係から再検証した。（2）先住民権利運動など社会運動との関連性から、これらの特性や現代的意義を解明した。（3）既存の原爆文学や核文学を国際的文脈から捉え直し、地球規模の文化・文学体系へと発展させるための足がかりを築いた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、アメリカ大陸、オセアニア、東アジアなどの地域を中心に個別に発展してきた核・原爆をめぐる表象を、（脱）植民地主義の視座から総合的に検証した。核文学研究、先住民研究、地域研究など複数の領域にわたる先行研究を土台とし、各分野・地域の専門家らが連帯する学際的な協働研究の体制をとることで、環境汚染、人種、ジェンダー、ナショナリティの問題など、ローカルかつ地球規模の課題に対応するための新たな議論の場を提供した。さらに、これまで原爆文学から切り離されてきた社会運動や言説・表象形態を取り入れることで、トランスパシフィックな核・原爆のナラティブをより豊かな知の体系として再編成することを試みた。

研究成果の概要（英文）：Our research examined the interconnections, conflicts, alliances, and differences of transpacific nuclear literature and cultural representations from (post)colonial perspectives. In particular, we (1) reevaluated nuclear and atomic bomb representations in the United States, Canada, Oceania, East Asia from (post) colonial frameworks, (2) inquired into the significance and characteristics of these representations in the context of social activism and Indigenous movements, (3) and established an international platform for discussing atomic bomb and nuclear literature on a global level.

研究分野：核文学

キーワード：核文学 原爆文学 植民地主義 先住民文学 環太平洋（ポスト）コロニアリズム エコクリティシズム

## 1. 研究開始当初の背景

20世紀以降、ウラン採掘・精製、核実験、原爆投下、原発、核廃棄など原爆製造や核エネルギーのサイクルに深く関わってきた環太平洋地域では、核や原爆をめぐる多種多様な文学作品やイメージが生み出されてきた。そしてこれらの言説や表象は、国家勢力拡大や自然資源獲得のために土地・文化の剥奪や破壊を引き起こしてきた植民地主義や帝国主義の歴史と無縁ではなかった。だが、既存の原爆文学や核文学というジャンルやこれらの研究は、広島・長崎の被爆の絶対性あるいは「核戦争はまだ起こっていない」という考えを根底に置くことで、原爆以前の日本帝国主義、あるいは欧米諸国による植民地主義の歴史を語ることが難しい構造を孕んだまま、発展する結果となってしまった。

もちろん、植民地主義の問題を原爆文学に組み込もうとする動きがなかったわけではない。1950年代後半から70年代にかけて原爆文学を体系化してきた長岡弘芳は「朝鮮人被爆者」の存在や言説の必要性を指摘しているし、長岡が編集に携わった『日本の原爆文学』（全15巻、1983）もまた、植民地主義をテーマとした作品を取り入れてはいる。だが、戦前アジア太平洋における日本帝国主義の歴史の延長にあるものとして原爆問題を大きく捉え直し、国家間あるいは異文化衝突や接触、植民地化された主体の複数性といった諸問題を批判的に検討する作業はなされてこなかった。この問題の本格的な取り組みは、川口隆行の『原爆文学という問題領域』（2008）まで待たねばならなかったのである。

原爆文学や核文学というジャンルやそれらの研究が、戦前からの植民地主義や帝国主義の歴史を語れない構造を抱え込み、このことが十分に問われないまま発展してきた一方で、先住民研究、環境社会学、地域研究などの分野では、すでにドナルド・A・グリンド、ブルース・E・ジョハンセン、ヴァレリー・L・クーリッツ、石山徳子、鎌田遵、ジョセフ・マスコーらによって、植民地主義の歴史的な文脈から、現在の核・原爆問題を捉え直す作業がおこなわれている。また、近年の環境批評や先住民文学研究においても、核汚染を主題化した文学作品を植民地主義の問題と結びつける研究がすすめられている。この傾向は、カナダ、オーストラリア、マーシャル諸島、台湾など核兵器や核エネルギーの製造過程と交わってきた環太平洋地域においてもみられ、ヘレン・ギルバートによるオセアニアの先住民文学研究や、李文茹による台湾先住民民族タオ人作家の反核運動研究などはその一端を担っている。

とはいえ、これらの文学研究は、特定の文化・地域の歴史や地理的配置を中心におこなわれてきたため、それらの言説や表象の相互的関わり合いや摩擦、連携や差異などの検証は手付かずのままであった。また、すでにジャンル化されている原爆文学や核文学との連関、あるいはこれらの限界や問題領域を克服する新たな体系も形成されているとはいえない。既存の原爆文学や核文学において植民地主義を語れない構造はどのように形成されてきたのか、帝国主義や植民地主義の歴史的な文脈から原爆文学や核文学の枠組みを再編成することで何が可視化されるのか、さらにこれらを世界的文学の課題のなかにもどのように位置づけることができるのか、これらの「問い」が本研究の核心をなしている。

## 2. 研究の目的

本研究は、各地域で独自の表現様式やテーマを発展させてきた環太平洋圏の核・原爆をめぐる文学作品や文化的表象を対象とし、これらの言説や表象の相互的関わり合いやせめぎ合い、連携や差異のあり方を（ポスト）コロニアリズムの視座から多角的に解明することで、既存の原爆文学や核文学を国際的文脈から捉え直し、「世界文学」の一翼を担う新たな知の体系とし

て再構築することを目的とする。具体的には、国際的研究ネットワークを形成し、(1) アメリカ、カナダ、オセアニア、東アジアにおける核・原爆の言説や表象を、歴史的背景や地政学的意義を明らかにしつつ、(脱)植民地主義との関係から再評価し、(2) 先住民権利運動など社会運動との関連性、「グローバル・ヒバクシャ」など領域横断的テーマ、口承伝統など表現方法の可能性を含めた多角的アプローチから、これらの特性や現代的意義を解明することで、(3) 複数の文化や立場が錯綜する複雑な歴史的・政治的・環境的諸相を孕んだ地球規模の文化・文学体系へと組み替えていくことを目的とする。

### 3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、具体的には以下の3つのアプローチを試みた。

#### 1. これまでの研究の再評価と(ポスト)コロニアリズムの視座からの検証

環太平洋圏における核・原爆をめぐる文学作品や文化的表象が、それぞれの地域や社会においてどのように生産・受容されてきたのか、どのような歴史的背景や地政学的意義をもつか、そしてこれまでどのように評価されてきたのかを検証しつつ、これらが植民地主義や帝国主義をめぐる議論とどのような関わりをもつかを明らかにした。

#### 2. 多角的アプローチによる文学的枠組みの拡大

先住民権利運動、民族独立運動、環境正義運動、反核運動など社会運動との関連性、グローバル・ヒバクシャ、汚染の言説、ジェンダー、ナショナリティなど領域横断的テーマからの分析、口承伝統、演劇、映像作品、音楽など表現方法の可能性の探究など、多角的アプローチを用いながら、核・原爆をめぐる言説・表象の相互的関連性や摩擦、連携や差異、そして現代的意義を解明した。

#### 3. 国際的研究ネットワーク形成と新たな知の体系の確立

フォーラムや学会を通じて国際的かつ領域横断的研究ネットワークを形成し、アフリカ、インド、中国、東南アジア、ヨーロッパなど、環太平洋圏以外の核・原爆をめぐる言説や表象とのつながりも検証することで、本研究の複雑性や広がりを示し、(脱)植民地主義の視座が地球規模の文学体系の再構成に有効であることを明らかにした。

基本的には以下の体制をとりながらも、個々の領域にこだわらず、すべての領域との関連性を意識した研究をすすめた。

#### **【研究体制】\*研究総括者：松永京子**

**北米(アメリカ・カナダを含む)：**ロバート・ジェイコブズ(核文化史、グローバル・ヒバクシャ、平和教育)、マイケル・ゴーマン(環境文学、ポストコロニアル文学)、松永京子(先住民文学・文化、エコクリティシズム)

**オセアニア(オーストラリア、ニュージーランド、マーシャル諸島を含む)：**一谷智子(先住民文学・文化、エコクリティシズム)、小杉世(先住民による環境表象、ポストコロニアル文学)

**東アジア(韓国、台湾、日本を含む)：**川口隆行(北朝鮮・韓国被爆者表象、東アジア圏社会運動)、村上陽子(沖縄文学、ジェンダー学)

### 4. 研究成果

初年度の2020年は、アメリカ、カナダ、オセアニア、東アジアにおける核・原爆の言説や表象を(脱)植民地主義との関係から再評価するため、各メンバーがそれぞれの担当地域における関連研究テーマについての資料収集・調査に着手した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で現地での調査ができなかったため、国内でとりよせた文献やデータなどを中心に個々の担当箇所

の研究を進めた。具体的には、松永とゴーマンがアメリカ中西部における先住民文学や環境文学に着目し、核開発と植民地主義的政策との関連や核汚染問題について調査を開始した。ジェイコブズは、これまでの調査に基づき、マーシャル諸島の核被害の実態を「グローバル被爆者」の観点から検証をおこなった。小杉と一谷は、核実験の被害を受けてきたオセアニア地域の先住民作家による小説・演劇・ビジュアルアーツの分析や、ポリネシア言語文化の調査をおこなった。川口と村上は、これまでの東アジアを中心した研究を継続する形で、コリアン被爆者や沖縄をめぐる核・原爆表象と社会運動や植民地主義の相関関係の検証に着手した。また、定期的な研究会を開催し、進捗状況を確認するとともに意見交換をおこなった。

2020年度に開催する予定だった国際フォーラム「環太平洋地域における核をめぐる想像力と植民地主義」が中止となったため、代替案としてフォーラムでとりあつかう予定としていたドキュメンタリー映画『寡婦の村』に関する意見交換をおこなう研究会を設けた。また、本科研の研究成果発表を目的とした共著 *Nuclear Colonialisms and Transpacific Imaginations* (仮) の構成や内容を検討した。

2021年度は、前年度に引き続き、アメリカ、カナダ、オセアニア、東アジアにおける核・原爆の言説や表象を(脱)植民地主義との関係から再評価するため、各メンバーがそれぞれの担当地域における関連研究テーマについて資料収集、調査、文献分析をおこない、定期的な研究会を開催して進捗状況を確認と問題共有をおこなった。2021年度後半は台湾先住民民族タオ人作家シャマン・ラポガン氏とベトナム少数民族チャム人作家インラサラ氏を招聘し、リーディングやディスカッションを中心としたイベントをオンラインで開催した。また、共著執筆のために、問題意識の共有と意見交換をするための研究会を設けた。

2022年度は、2021年度と同様、各メンバーがそれぞれ担当地域を中心とした関連研究テーマについて資料収集、調査、文献分析をおこなった。また、定期的な研究会を開催して進捗状況の確認をおこない、本研究代表者と分担者の調査・分析結果を共有する中間発表の場を設けた。ドキュメンタリー映画『寡婦の村』上映会とピーター・ブロウ監督によるトークを2023年度に実現するため、『寡婦の村』の翻訳を開始し、本ドキュメンタリー映画の歴史的社会的背景の研究を進めた。また、植民地主義の歴史と文化表象の関わりの理解を深めるため、沖縄での研修を開催し、「沖縄戦の図」や米軍基地の汚染問題などについて学ぶ機会を設けた。

最終年度は、これまでにおこなった資料収集、調査、文献分析をもとに共著の執筆・編集に着手した。具体的には、東アジアの文脈から原爆表象を再検証する論考(川口)、大牟田稔と大江健三郎の作品を中心に沖縄の被爆者表象を分析する論考(村上)、フランス領ポリネシアの核実験関連のメモリアルをめぐる政治性を検証する論考(ジェイコブズ)、アラスカ先住民による新聞 *Tundra Times* を中心に核実験反対運動と先住民運動の関連性を検証する論考(松永)、キャシー・ジェニトル=キジナーの詩集を環太平洋の見地から分析する論考(一谷)、五大湖周辺のエネルギーをめぐる植民地主義的政策と先住民環境運動を検証する論考(ゴーマン)の執筆を開始した。また、協力者であり共著分担執筆者である李文茹氏に、台湾の反核運動とシャマン・ラポガン作品に関する発表を依頼し、内容についてのディスカッションをおこなった。2023年度の重要な成果のひとつとして、ドキュメンタリー映画『寡婦たちの村』の日本語字幕完成、上映会、ピーター・ブロウ監督によるトークがあげられる。また、原爆文学研究会の一環としておこなったワークショップ「翻訳がつなく経験 マーシャル、セミパラチンスク、広島」(川口、一谷、溝淵、李)は、後継プロジェクトにつながる重要な足がかりとなった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 55(10)
2. 論文標題 「日本人」の変容の可能性に向けて—大江健三郎『沖縄ノート』を読む	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 290-299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 8
2. 論文標題 沖縄の文学 崎山多美「月や、あらん」 / 「沖縄の文学」を終えて—変容を促す文学 / 変容する読者	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 散文誌 隣り村	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 7
2. 論文標題 沖縄の文学 目取真俊『水滴』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 散文誌 隣り村	6. 最初と最後の頁 88-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 6
2. 論文標題 沖縄の文学 大城立裕「カクテル・パーティー」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 散文誌 隣り村	6. 最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 5
2. 論文標題 沖縄の文学 池沢聰「ガード」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 散文誌 隣り村	6. 最初と最後の頁 92-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 58
2. 論文標題 満若勇作, 映画「私のはなし 部落のはなし」について語る	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会文学	6. 最初と最後の頁 41-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行, 坪井秀人	4. 巻 109
2. 論文標題 戦後表現--Japanese Literature after 1945	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本近代文学	6. 最初と最後の頁 228-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Robert Jacobs and Mick Broderick	4. 巻 21:10:4
2. 論文標題 Managing The Days: personal responsibility and the Fukushima nuclear disaster	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Asia-Pacific Journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Robert Jacobs	4. 巻 21
2. 論文標題 Four legs good, two legs bad: animals return to the Chernobyl Exclusion Zone	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Arcadia	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5282/rcc/9700	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 一谷智子	4. 巻 15
2. 論文標題 核被害と気候変動のはざままで キャシー・ジェットニル=キジナーのトランスパシフィックな詩学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エコクリティシズム・レビュー	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 85
2. 論文標題 沖縄 を教えるー沖縄県の国語科副読本をめぐる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 147-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 2
2. 論文標題 沖縄の文学 山城正忠「九年母」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 散文誌 隣り村	6. 最初と最後の頁 76-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 3
2. 論文標題 沖縄の文学 池宮城積宝「奥間巡査」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 散文誌 隣り村	6. 最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 4
2. 論文標題 沖縄の文学 久志富佐子「滅びゆく琉球女の手記」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 散文誌 隣り村	6. 最初と最後の頁 82-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 21
2. 論文標題 INEI加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナーの開催(1) 平和教育を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 41-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 15
2. 論文標題 大城立裕「亀甲墓」--墓の中の沖縄戦	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化冊子 草茫茫通信 特集：人間が戦争をする	6. 最初と最後の頁 252-260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 村上陽子	4. 巻 9
2. 論文標題 沖縄戦後文学探訪2 仲程昌徳『沖縄文学の魅力 - - 沖縄の作家とその作品を読む』に学ぶ大城立裕文学の読み方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 越境広場	6. 最初と最後の頁 160-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 129
2. 論文標題 カストロフィの忘却と想起 ポスト「3・11」の歴史的地層	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本學報	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 98.12
2. 論文標題 『ジンドレ』と『琉大文学』に見る広島・長崎・ピキニ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 國語と國文学	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 20
2. 論文標題 INEI 加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナー(3) --平和教育者アーカイブの構築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ,広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 20
2. 論文標題 「コロナ」から学校教育をリデザインする学術知共創の可能性と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Robert Jacobs	4. 巻 19.17.4
2. 論文標題 Not seeing the contaminated forest for the decontaminated trees in Fukushima	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal	6. 最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kyoko Matsunaga	4. 巻 11.2
2. 論文標題 Indigenous Antinuclear Literary Resistance: Jim Northrup's Satire and Anishinaabe Trans/nationalism	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Transnational American Studies	6. 最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5070/T8112049585	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松永京子	4. 巻 13
2. 論文標題 海をわたるウランの物語--『寡婦の村』とカナダ先住民文学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エコクリティシズム・レビュー	6. 最初と最後の頁 22-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小杉世	4. 巻 -
2. 論文標題 Lemi Ponifasio の Jerusalem 境界線と壁を越えて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語文化共同研究プロジェクト2019 : Cultural Formation Studies II	6. 最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小杉世	4. 巻 -
2. 論文標題 マーシャル諸島のコミュニティ映画 ミクロネシアの波を世界へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語文化共同研究プロジェクト2020 : Cultural Formation Studies III	6. 最初と最後の頁 51-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村上陽子	4. 巻 25.1
2. 論文標題 イクサの記憶を生きる身体 - - 崎山多美「うんじゅが、ナサキ」論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 沖縄国際大学日本語日本文学研究	6. 最初と最後の頁 29-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 13
2. 論文標題 動物たちの原爆文学 『原爆詩集』 試論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エコクリティシズム・レビュー	6. 最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 63.11
2. 論文標題 「思い出す」ためのレッスン（特集「二十世紀日本語詩へ」）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計48件（うち招待講演 35件 / うち国際学会 14件）

1. 発表者名 川口隆行、一谷 智子、溝淵園子、李文茹
2. 発表標題 翻訳がつかなく経験 マーシャル、セミパラチンスク、広島
3. 学会等名 原爆文学研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 合評会『遠い声をさがして－学校事故をめぐる 同行者 たちの記録』
3. 学会等名 第57回中四国人類学談話会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Is Hiroshima still radioactive?: nuclear explosions and the environment
3. 学会等名 Inaugural Hiroshima Seminar at the Museum of Literature Ireland, University College Dublin（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 The global hibakusha during the Cold War
3. 学会等名 Asian Environmental History Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Global hibakusha in history
3. 学会等名 ICAN Academy ( 招待講演 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 The global hibakusha--a discussion with Prof. Robert Jacobs
3. 学会等名 International Student / Young Pugwash ( 招待講演 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Book talk, nuclear bodies: the global hibakusha
3. 学会等名 Department of Political Science, University of Oslo ( 招待講演 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Nuclear bodies
3. 学会等名 Seminar, Eindhoven University of Technology (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Learning to see the global hibakusha hidden in the Cold War ' s shadows
3. 学会等名 Learning to see the global hibakusha hidden in the Cold War ' s shadows (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Nuclear war in the Cold War: the global legacies of nuclear testing on colonial and indigenous populations
3. 学会等名 Seminar, Danish Institute of International Studies (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Nuclear bodies
3. 学会等名 Higher Seminar, Royal Institute of Technology (KTH) (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Nuclear time mass media time
3. 学会等名 Lecture at Concordia College in Montreal, Canada (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松永京子
2. 発表標題 場所の記憶と記録--アリュージョン列島をめぐる戦争のナラティブ
3. 学会等名 第35回エコクリティシズム研究学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kyoko Matsunaga
2. 発表標題 Transnational Hibakusha Narratives: Stories of Korean Hibakusha
3. 学会等名 Henry James Society, 9th International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kyoko Matsunaga
2. 発表標題 An Intercultural/textual Reading of Militarization and Aridity
3. 学会等名 Inter/Desert Dialogue #2: Energy and Infrastructure (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kyoko Matsunaga
2. 発表標題 Commentator on Panel Discussion 1, Global Hibakusha 1
3. 学会等名 HPI Workshop: Hiroshima, the Origin of the Antinuclear Activism (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michael Gorman
2. 発表標題 Naomi Hirahara's Hibakusha Novels: The 'Mas Arai Mystery Series' and Shukkeien
3. 学会等名 Hiroshima International Festival (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michael Gorman
2. 発表標題 Transnational Hibakusha Narratives: Mas Arai, Naomi Hirahara's 'Hiroshima Boy'
3. 学会等名 Henry James Society, 9th International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kyoko Matsunaga
2. 発表標題 Reading Aridity from a Transpacific Lens: Leslie Marmon Silko and Kyoko Hayashi
3. 学会等名 Western Literature Association (国際学会)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 村上陽子
2. 発表標題 連帯 の残余 日本「復帰」前後の沖縄文学
3. 学会等名 第44回南島文化市民講座 2022年度協定校間国際学術講演会 沖縄・韓国50年（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 The Pacific Ocean as a radioactive fallout sink during the Cold War
3. 学会等名 American Society of Environmental History (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 When is a nuclear test actually an attack?: Cold War thermonuclear testing and downwind fallout clouds
3. 学会等名 Society for the History of Technology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Nuclear fieldwork in the Global Hibakusha Project
3. 学会等名 Ethics & Ethnography in Nuclear History (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Nuclear Bodies: The Global Hibakusha
3. 学会等名 Science and Global Security Seminar, Princeton (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 The passive-aggressive atom: can nuclear reactors be “peaceful?”
3. 学会等名 Hiroshima-Nagasaki-Fukushima: Articulations of the Nuclear. The Case of Japan (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 The Global Hibakusha
3. 学会等名 Hearing voices from Hiroshima: nuclear weapons, war and peace (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Nuclear time    mass media time
3. 学会等名 Lecture at Concordia College in Montreal, Canada (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 映画「私のはなし 部落のはなし」について語る
3. 学会等名 日本社会文学会2022年度秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kyoko Matsunaga
2. 発表標題 Visualizing the “ Invisible,” Voicing the “ Unheard ” : The Representation of Nuclear Legacies in Documentary Films
3. 学会等名 中四国アメリカ学会第49回年次大会シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 一谷智子
2. 発表標題 ポストメモリー世代が紡ぐ戦争 Narrow Road to the Deep Northと Burnt Shadowsにみる多方向的記憶
3. 学会等名 日本英文学会第93回全国大会 シンポジウム『第二次世界大戦と英語圏文学』（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 一谷智子
2. 発表標題 核被害と気候変動のはざままで キャシー・ジェニトル=キジナーのトランスパシフィックな詩学
3. 学会等名 第 33 回エコクリティシズム研究学会大会 シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上陽子
2. 発表標題 沖縄出身兵士の捕虜体験
3. 学会等名 シンポジウム 日本文学から考えるPOW・国際法・レイシズム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上陽子
2. 発表標題 大城立裕文学における戦争と占領
3. 学会等名 大城立裕の文学と遺産 追悼記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上陽子
2. 発表標題 コメント
3. 学会等名 『なぜ戦争体験を継承するのか ポスト体験時代の歴史実践』刊行記念シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 カストロフィの忘却と想起 - ポスト「3・11」の歴史的地層
3. 学会等名 韓国日本研究団体第10回（韓国日本学会第102回）国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 原爆という災難の文学的な再現の様相 在韓被爆者支援と二人の詩人
3. 学会等名 朝鮮大学校災難人文学事業団第11回国内外優秀学者招請特別講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 在韓被爆者支援と文学－深川宗俊と御庄博美
3. 学会等名 日文研共同研究会「戦後日本の傷跡」第7回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Greenwashing plutonium: transforming US nuclear weapon legacy sites into nature preserves
3. 学会等名 中四国アメリカ学会第49回年次大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Still violent: the ambiguous legacies of nuclear power plants
3. 学会等名 Atomic Heritages Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Locating authority in envisioning nuclear markers
3. 学会等名 Culture and the Impending Ecocatastrophe
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 The global hibakusha and Cold War nuclear humanities
3. 学会等名 Parley 2021 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 The history of military thought about radioactive fallout as an intentional weapon effect in warfare
3. 学会等名 annual conference of the British Nuclear Test Veterans Association (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上陽子
2. 発表標題 崎山多美「コンタクサンド (or砂の手紙)」を読む
3. 学会等名 日本大学文理学部・文学とメディア環境研究会 成均館大学東アジア学院・人文韓国研究所 (HK+) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上陽子
2. 発表標題 変成する聴き手となるために--コトバにカチャーされる身体
3. 学会等名 日本大学文理学部・文学とメディア環境研究会 成均館大学東アジア学院・人文韓国研究所（HK+）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 申知瑛、村上陽子
2. 発表標題 第一回：証言者がいない証言 - アジア「女性」の声を聴く場所
3. 学会等名 連続対談会 東アジアを横断する声 - 韓国／日本／沖縄の境界で東アジアを見つめる（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上陽子
2. 発表標題 林京子文学の「多声性」《亡くなられて4年、命日の夜に》
3. 学会等名 トーキングアバウト広島&長崎 #2（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上陽子
2. 発表標題 沖縄文学における身体と空間
3. 学会等名 翰林大学日本学研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Robert Jacobs
2. 発表標題 Nuclear colonialism: selecting the irradiated
3. 学会等名 Race, Violence, and Health series at Whitman College, USA (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 ベフルーズ・ブチャーニー, オミド・トフィギアン 英訳, 一谷 智子 監修・監訳, 友永 雄吾 監修・監訳	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 443
3. 書名 山よりほかに友はなし マヌス監獄を生きたあるクルド難民の物語	

1. 著者名 村上陽子、飯田祐子、泉谷瞬、井原あや、大串尚代、小平麻衣子、康潤伊、木村朗子、久米依子、倉田容子、黒岩裕市、笹尾佳代、篠崎美生子、武内佳代、竹田志保、徳永夏子、内藤千珠子、中谷いずみ、堀ひかり、光石亜由美、米村みゆき	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 258
3. 書名 ジェンダー×小説ガイドブック：日本近現代文学の読み方	

1. 著者名 川口隆行, 峠三吉, 李文茹, 劉怡臻, 馮啓斌, 翁稷安, 沈眠	4. 発行年 2023年
2. 出版社 逗点文創結社(台湾・桃園市)	5. 総ページ数 227
3. 書名 原爆詩集(2023全新翻譯文庫本)	



1. 著者名 川口隆行, 山藤夏郎, 林承緯, 柳瀬善治, 陳志文, 楊素霞, 榊祐一, 羅曉勤	4. 発行年 2023年
2. 出版社 五南圖書出版股(--)有限公司(台湾・台北市)	5. 総ページ数 440
3. 書名 日本學指南	

1. 著者名 Yubi Fujiwara, Yoshiaki Furuzawa, Michael Gorman, Brien Hallett, Toshihiro Higuchi, Yasuhiro Inoue, Akira Kawasaki, Kim Yeongho, Kyoko Matsunaga, Shigeaki Mori, Mariko Nagai, Keiko Ogura, Ikuko Ota, Shiro Sato, Javier Sauras, Gen Tagawa, Yu Takeda, Aoe Tanami, Takafumi Yoshie, Masae Yuasa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Keisuisha	5. 総ページ数 272
3. 書名 Hiroshima and Peace Studies: From the First Atomic Bombing to the Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons	

1. 著者名 伊藤詔子, 中野博文, 肥後本芳男, マイケル・ゴーマン, 松永京子 ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 388
3. 書名 アメリカ研究の現在地	

1. 著者名 キャシー・ジェットニル=キジナー、一谷智子(翻訳・解説)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 開かれたかご	

1. 著者名 又吉栄喜 山里勝己 大城貞俊 崎浜慎 村上陽子 小嶋洋輔 呉屋美奈子 知念ウシ 高良倉吉 本 浜秀彦 伊野波優美 西岡敏 松下優一 嘉数道彦 田場裕規 スティーブ・ラブソン 孫知延 波照間 永吉 金間愛 ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 インパクト出版会	5. 総ページ数 387
3. 書名 沖縄を求めて沖縄を生きる 大城立裕追悼論集	

1. 著者名 又吉栄喜 村上陽子(解説)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 コールサック社	5. 総ページ数 384
3. 書名 歌う人 (又吉栄喜小説コレクション3)	

1. 著者名 Robert Jacobs	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Nuclear Bodies: The Global Hibakusha	5. 総ページ数 344
3. 書名 Yale University Press	

1. 著者名 elin o' Hara slavick and Robert Jacobs	4. 発行年 2022年
2. 出版社 McGill-Queens University Press	5. 総ページ数 451
3. 書名 Toxic immanence: decolonizing nuclear legacies and futures	

1. 著者名 川口隆行, 草原和博, 吉田成章ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 207
3. 書名 教育の未来デザイン 「コロナ」からこれからの教育を考える	

1. 著者名 川口隆行, 大原祐治, 石川巧ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 236
3. 書名 占領期の地方総合文芸雑誌辞典 下巻 西日本編(滋賀県~沖縄県)	

1. 著者名 川口隆行, 高雄きくえほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 インパクト出版会	5. 総ページ数 429
3. 書名 広島 爆心都市からあいだの都市へ 「ジェンダー×植民地主義 交差点としてのヒロシマ」連続講座 論考集	

1. 著者名 川口隆行, 藤田のぼる, 宮川健郎, 津久井恵ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ポプラ社	5. 総ページ数 222
3. 書名 「ズッコケ三人組」の作家・那須正幹大研究: 遊びは勉強 友だちは先生	

1. 著者名 川口隆行, 宇野田尚哉, 坪井秀人ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 367
3. 書名 対抗文化史 冷戦期日本の表現と運動	

1. 著者名 川口隆行, 坪井秀人ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 376
3. 書名 戦後日本の傷跡	

1. 著者名 川口隆行	4. 発行年 2022年
2. 出版社 琥珀書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 広島 抗いの詩学 原爆文学と戦後文化運動	

1. 著者名 Robert Jacobs ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Pennsylvania Press	5. 総ページ数 344
3. 書名 After Fukushima: Legacies of 3.11 in Context	

1. 著者名 Robert Jacobs ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Horitsu Bunkasha	5. 総ページ数 276
3. 書名 広島発の平和学：戦争と平和を考える13講	

1. 著者名 市川薫編著、一谷智子、巽孝之、早川敦子ほか7名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 開文社	5. 総ページ数 339
3. 書名 語られぬ他者の声を聴く--イギリス小説にみる 平和 を探し求める言葉たち	

1. 著者名 N. Ganesan, Robert Jacobs, et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Emerald Publishing	5. 総ページ数 208
3. 書名 International perspectives on democratization and peace	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1. 『寡婦たちの村』上映会と監督トーク開催、2023年12月10日。  2. 一谷智子、大川史織監督『タリナイ』福岡上映記念×キャシー・ジェトニル=キジナー『開かれたかご』刊行記念クロストーク（本のあるところajiro）2023年5月27日。  3. 一谷智子、瀬尾夏美著『声の地層 災禍と痛みを語ること』（生きのびるブックス）刊行記念トークイベント（福岡 本と羊）2023年11月11日。  4. 一谷智子、『読売新聞』「父の戦没地・マーシャル諸島、遺族再訪の記録…「平和考えるきっかけに」西南学院大で上映会」（マーシャル諸島映画上映会に伴う取材記事）（2023年12月14日）  5. 川口隆行、「戦争を考える 戦争の記録や ニュース・物語 たらなくなったら見なくていいよ」『朝日小学生新聞』2023年08月01日、インタビュー。  6. 川口隆行、「被爆教員らの証言映像、平和教育に 広島大研究センター、アーカイブ10人分制作」『西日本新聞』2023年08月06日、インタビュー。  7. 川口隆行、「『ピカドン』（初版オリジナル復刻版）と『ピカドン』とその時代』刊行に寄せて」、原爆の図丸木美術館、丸木美術館ニュース155、2023年10月15日、寄稿。  8. 松永京子、ドキュメンタリー映画『寡婦たちの村』字幕制作、2023年12月。  9. 松永京子、企画・司会 アーサー・ピナード+岡村幸宣対談、ASLE-J、広島国際会議場、2023年8月26日。  10. 小杉世、Nochi Haruka, 'Kiribati's Nuclear Past Inspires Support for Treaty' NHK World Japan, Backstories, NHK, 26 January 2021（取材協力：写真・情報提供）  11. 村上陽子、コメント「見えないものをめぐる文学」、『日本オーラル・ヒストリー研究』16号、105-108頁、2020年12月。  12. 村上陽子「研究動向 林京子」、『昭和文学研究』81号、211-214頁、2020年9月。  13. 村上陽子「沖縄戦後文学再読 - 長堂英吉「桑梯子の墓」、『越境広場』7号、207-211頁、2020年6月。</p>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	ゴーマン マイケル  (Gorman Michael)  (20625892)	広島市立大学・国際学部・教授    (25403)	
研究分担者	川口 隆行  (Kawaguchi Takayuki)  (30512579)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授    (15401)	
研究分担者	小杉 世  (Sei Kosugi)  (40324834)	大阪大学・大学院人文学研究科(言語文化学専攻)・教授    (14401)	
研究分担者	伊波 陽子(村上陽子)  (Murakami Yoko)  (40780581)	沖縄国際大学・総合文化学部・教授    (38001)	
研究分担者	ジェイコブズ ロバート  (Jacobs Robert)  (60423969)	広島市立大学・平和研究所・教授    (25403)	
研究分担者	一谷 智子  (Ichitani Tomoko)  (70466647)	西南学院大学・外国語学部・教授    (37105)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	李文茹  (Lee Wenju)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 シャマン・ラボガン氏を迎えての研究会	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 インラサラ氏を迎えての研究会	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストラリア	クイーンズランド大学			
米国	アリゾナ州立大学			
オーストリア	メルボルン大学	オーストラリア国立大学		